

連続講座を実施しました



H22.11.13 家庭教育・子育て連続講座 (第3回目)

“その一言で子どもが変わる
—いいところ探し、いいところ伸ばし—” 講師：中岡 典子 先生

〔講座概要・コメント〕

＜子どもの「やる気」を育てるための親の役割＞
子どもの「やる気」を育てる最初の時期は幼児期です。この期は、親が良い手本を見せることが大切です。

学童期は、子どもに多様な経験をさせ、内にある力が何かを探り、引き出すこと。
思春期は、情報の提供をしたり話を聴いたりすることが親の役目です。
どの時期にも子どもの心に響く「ほめ言葉」が、さらに「やる気」を育てます。

H22.11.27 家庭教育・子育て連続講座 (第4回目)

“わっ！輪・環・話・和そして絆” 講師：玉井 俊幸 先生

〔講座概要・コメント〕

お父さん。お母さん。みなさん。親子の絆はどうですか。家族の絆は心配ありませんか。

親子の絆も家族の絆も、日頃の五感を働かせる生活の積み重ね（食、スキンシップ、語り、遊び、読み聞かせ、感動体験など）から太く、強くなります。子どもは国の宝。プレー！プレー！ババ・ママ。ファイト！ファイト！爺・婆。



家庭教育・子育て連続講座

託児担当 橋本 千春 さん

「1年生になって、たくさん字を覚えたよ」と、黒板に覚えたての文字を書いて見せてくれる子。それにつられて絵を描いて「これなんだ？」と問い掛けてくる子。いつの間にか黒板を使った「しりとり大会」が始まっていました。子どもたちのやりたい気持ちを笑顔で受け止め、できた喜びを一緒に分かち合うことって素敵なことですね。

子育てQ&A



5歳児がいます。子どもの悪いことばかりが目について、そのたび感情的に叱ってしまいます。時折、抱きしめるなどスキンシップを大切にしているつもりなのですが、付け足しのような気がして…上手な叱り方を教えてください。

叱ることは、親が行う大切な教育行為です。誤った言動に対してはしっかり叱り戒めていくことを抜きにして、健やかな子どもの成長は望めません。そこで次の観点に留意して叱るようにしてはいかがでしょうか。

① 叱るべきことを抑える。(生命、他者への危害、迷惑等)

② 叱るべき時を抑える。(基本は「すぐ」「その場」)

③ 子どもに伝わる叱り方で叱る。

(子どもの目を見て・恐怖心を抱かせない・落ち着いた態度で)



【えひめ家庭教育・子育てQ&A(第2集)より抜粋】

発行元・連絡先

〒791-8502 松山市北持田町132番地 中予教育事務所内
伊予地域家庭教育・子育て支援チーム 担当 大瀧
TEL: 909-8780 FAX: 941-6873

[伊予地域家庭教育情報誌]

ほのぼの

第8号



あいさつの仕方を実習



H23.1.26 翠小学校にて 親も子もロールプレイングに意欲的に取り組みました

— 地域に根ざした子育て環境づくりを —

子育てにはサンマ(三つの間—時間・空間・仲間)が必要だと言われています。

若いお母さんやお父さんたちは、散歩の途中でフラッと立ち寄り、だれかとたわいない話をしながらお茶を飲み、そこで、子どもを自由に遊ばせることができ、また、お互いに子育ての不安や悩みについて気軽に話し合うことができるようなフラットな居場所を求めているのではないのでしょうか。

今後、そうした情報の交換・交流の拠点として、「地域子育て支援サロン」や「子育てサークル」のような場所の開発と充実を地域の皆で考え、子育てしやすい環境を整えることが大切です。

伊予地域家庭教育・子育て支援チーム



親友と…

あさみ はるな
浅見八瑠奈選手(世界柔道等女子 48kg 級 金メダリスト)の
あさみ かずみ
母親、浅見和美さんにインタビュー!!

《浅見八瑠奈選手の最近の主要大会戦績》

- 2011年 グランドスラム・パリ大会 (2/5) 優勝
 - 2011年 ワールドマスターズ (1/15) 優勝
 - 2010年 世界柔道選手権 (9/12) 優勝
 - 2010年 ワールドマスターズ (1/16) 優勝
- 現在、山梨学院大学4年生。4月よりコマツに入社の予定

子どもの夢を育む家庭教育・子育て

Q1 八瑠奈さんはどのようなお子さんでした？

親として、「サツマイモがどんな育ち方をするのかも知らない子どもにはしたくない」という思いから、三津浜から北山崎そして南山崎に生活場所を移し、間近で自然を感じる生活を始めることにしました。

八瑠奈が本格的に柔道を始めたのは3歳の頃ですが、それ以前から姉が通う伊予柔道会には当然のように姉に引っ付いて行っていましたね。練習は週3回、夕方6時半から2時間半程度でした。

とにかく幼い頃から姉弟(きょうだい)の仲が良く、子ども3人とも柔道が好きで、自宅ですら柔道着でいることはすごく当たり前のことでした。

ただ、八瑠奈だけはこれまで柔道を一度もやめたいと言ったことはありませんでした。それは、姉弟(きょうだい)の年齢差が2歳ずつということもあり、柔道を習うときにはいつも上(姉)か下(弟)と一緒にいてくれたからなのかもしれません。また、八瑠奈は昔から、「強くなりたい。負けたくない。だから練習する。だから努力する。」それを地道に続ける子でした。この一生懸命に取り組む姿勢は柔道に対してだけのものではなく、例えば小学校時代に習っていたピアノや自転車大会参加への姿勢などでも見られました。「自分は不器用だという思いから努力するのだから。その気持ち、結果としていい実を結んできているのだから。」と主人は八瑠奈を見ているようです。それに八瑠奈は、自分の力だけで強くなったとは思っていません。昔から、

自分はまわりのいろいろな人に支えられていると実感しているようです。それは、これまで八瑠奈がピンチに立たされたとき、何度も、必ずと言っていいほど誰かのサポートや助けがあったからです。しかもそれは単なる偶然とは思えない、何か必然のようなものさえ感じられるタイミングです。ありがたく、そして不思議な気がします。

Q2 八瑠奈さんの夢と成長について聞かせて下さい。

八瑠奈が世界を意識するようになったのは、韓国で開催される国際大会に初めて出場するようになった高校生の時のようです。小学校時代の恩師から「夢に一歩近づきましたね」という手紙が届いたことが大きいと八瑠奈は言っています。おそらく、小学校のときに自分が口にした「夢」と「現在の自分」との距離が短くなってきていることを認識させてくれるものだったのでしょう。もっとも、以前は柔道でどうこうという明確なものは特には持っていなかったようで、小さいときには「花屋さんになりたい」など、女の子が抱く憧れを普通に持っていたようです。そう言えば大学生3年生の時は、「マクドナルドの店員になるにはどうすればいいの?」と私に聞いてきたこともありましたが(笑)。今は、「オリンピックに出る」というはっきりとした思いを抱いていますけどね。

自分で夢を描き、それに向かっていくわが子に対し、私たち親は、とにかく自分が納得しなければ前に進むことはできないのだから見守るしかないと思っています。

北・南山崎の環境や伊予柔道会の生活は、八瑠奈の成長(人格形成)に大きな影響を与えてくれたと思います。大きくなるにつれ、自然に、自分がしてもらったように年下の子どもに面倒をみるのができたり、自分を取り巻く人々への感謝の気持ちを素直に表したりすることができるようになりました。また、柔道を通して、あきらめない心や人を見抜く力が確実



インタビューの様子 (H23.2.4)

止本昌幸チーム員
(伊予市中央公民館長)



八瑠奈さん

仲良し姉弟3人

に育ってきたと思います。自分に厳しく他人に寛容な姿勢が培われたことで、よき指導者やよき友達に恵まれ、多くの人から支持され、大事にされています。柔道を続けてきたおかげだと思います。

Q3 おとうさんは八瑠奈さんにとってどんな存在でした？

主人が新田高校で柔道部の指導をしていたことから、八瑠奈は家で幼い頃から父親の英才教育を受けていたのだらうと思われがちです。でも実際は、主人は伊予柔道会や中学校の部活での指導に一切口出しせず、柔道については完全に我が子を他の指導者に委ねていました。昔から主人は、自分の学校の生徒たちには全精力を傾けて指導にあたっていました。我が子の指導はしていないのです。普通の父親だったのです。ただ、八瑠奈が新田高校に入学したときは、主人は八瑠奈を一人の生徒・部員としてしか見ませんでした。ですから八瑠奈も高校の3年間は、たとえ同じ屋根の下にいても、父親を指導者や監督としてしか見ることはできなかったようです。



八瑠奈さん

家族・絆

Q4 今、子育てや家庭教育に懸命な母親や父親、そして子どもたちにコメントをください。



浅見さんの深い愛情が伝わる

子どもに夢を託しすぎないこと。他の子どもと比べすぎないこと。甘やかしすぎないこと。(我が家は厳しく育てました。)欠点ばかり示さないこと。そして、子どもの思いや良さを認めてあげることが大切だと思います。さらに、いろんな経験をさせてやることやいろんな人とかかわりを持たせることも大切だと思います。自分ひとりの力で良い人格形成はできません。いろいろな人たちとのかかわりの中から、良い人と交わることが大切だと思います。

親自身も、様々な人とかかわりをしがらみととらえるのではなく絆ととらえると、自分自身の目も広がるし、生活が潤うと思います。ものの見方や考え方をプラス方向に向けたいものです。実際、八瑠奈のおかげで親戚みんなの絆が深まってよかったと思います。

今の子どもたちには、「やってやれないことはない。やらずにできるわけがない。今は親が助けてくれるから、思い切って前進して欲しい。泣きたいときには泣き、喜ぶときには喜んで欲しい。その感情表現を思いっきりして欲しい。」と伝えたいです。

浅見さん ありがとうございます。ますますのご活躍を期待いたします。

学習会を実施しました

H22.12.14 郡中地区公民館

2グループに分かれ、我が家の子育て・家庭教育について話し合いました。言葉の乱れやお金の遣い方、ケータイの心配など、共通の不安や悩みがどの家庭にもあることも確認するとともに、よその家の対処法を聞くよい機会となりました。



3年部

H23.1.25 由並小学校

学年ごと(1・2年のみ合同)のグループに分かれ、発達段階に応じた家庭教育懇談会を実施しました。学年での話合いの後、叱り方やほめ方の親としての基本的な姿勢について参加者全員で考えました。

H23.1.26 翠小学校

あいさつの仕方等について、親子であるいは通学班のメンバーで実技をとおして学習しました。あいさつの大切さの再認識や自分の生活の見直しなどについて、全校児童のひとりひとりが、自分の言葉でしっかりとした感想を述べることができました。



おはよう

ムニャ ムニャ